

【特別支援学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価) A:十分達成できている B:おおむね達成できている C:やや不十分である D:不十分である
--

学校名	佐賀県立伊万里特別支援学校
-----	---------------

1 前年度 評価結果の概要	・取組内容13項目のうち、最終結果でのBは2項目だった。その中の「学校間交流及び共同学習の実施」については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からやむを得なかったといえる。次年度も感染の様子を見ながら取り組んでいきたい。「業務改善・教職員の働き方改革の推進」については、大きな行事の事前準備の影響で、月毎に時間外勤務が増加している。しかし、行事の見直しも含め、職員の意識は高まってきている。次年度も継続して取り組みたい。 ・心の教育の項目で、「いじめを見逃さない体制づくり」の推進に力を入れた結果、昨年度より職員の意識が改善した。今後も、いじめ等に対する意識を高く保ち、「いじめ(では)はない」ではなく、「小さなものでも見逃さない」という意識を持ち、生徒の指導支援にあたっていよう、全職員で取り組む。 ・感染症予防対策の実施は、職員、保護者、関係機関の方々の理解を受け、おおむね実施できている。執務室へのパーテーション配備等、物的支援も整ってきつつある。今後も引き続き、対策の強化を図っていく。
---------------	--

2 学校教育目標	将来の社会生活を見据え、自立を目指して児童生徒個々の特性に応じた教育を行う。
----------	--

3 本年度の重点目標	① 児童生徒の特性と教育的ニーズの把握に努め、個に応じた教育計画・実践の充実を図る。 ② 健康・安全教育の充実を図り、安全・安心な教育環境を整備する。 ③ 進路指導の充実にも努め、キャリア教育の実践を積み重ねて卒後の自立的な社会生活を目指す。 ④ 児童生徒の主体性を尊重し、「明るく」「素直に」「元よく」「たくましく」生きる力を育む。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)								
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○自分の子どもが成長したと感じる保護者70%以上を目指す。 ○本校のキャリア教育全体計画に沿った教育の提供ができたと回答する教職員70%以上を目指す。 ○「特別支援教育の専門性が向上した」と回答する教職員80%以上を目指す。 ○「個別の指導計画」における自立活動の指導及び評価が適切に行われた」と回答する教員80%以上を目指す。	・一人一人の特性を丁寧に見取り、適切な指導・支援を行う。 ・日々の学習活動に本校におけるキャリア教育の視点を取り入れ実践していく。 ・児童生徒一人一人のニーズに応じるための専門性の向上に資する教職員研修を実施する。その、内容等の精選と充実を検討し、計画的に実施する。 ・自立活動の指導内容及び方法、評価方法等を見直し、適切に実施することにより、効果的な学力向上につなげる。 ・自立活動研修会の実施や自立活動に関する情報発信に努める。	B	・各学年、各学級で一人一人の特性を資料作成等を通して把握し、年間の単元計画を立てて、個々に応じた指導・支援につなげている。 ・授業シート、指導案にキャリア教育の視点を記入して、視点を意識し日々の実践につながるようしていく。 ・学部研や全校研究会Ⅱで育成を目指す資質・能力の視点で授業研究会や研修を行い、専門性の向上を図った。 ・長期休業を利用して日々の実践につながるよう、作業療法士に依頼し、7月29日(金)に「見て、感じてわかる!!見る機能について」という演題で教職員研修を実施した。 ・各種評価資料等を複数の目で確認して、検討することで、日々の学力向上に生かしている。 ・各種研修会の案内や、自立活動に関する情報など様々な情報発信を行っている。継続して取り組んでいく。	A	○自分の子どもが成長したと感じる保護者70%以上を目指し、97%が成長を感じていると答えた。 ○本校のキャリア教育全体計画に沿った教育の提供ができたと回答する教職員は88%であった。 ○「特別支援教育の専門性が向上した」と回答する教職員は94%にのぼった。 ○「個別の指導計画」における自立活動の指導及び評価が適切に行われた」と回答する教員は89%であった。 アンケートすべてで目標値は満たした。児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着についてのそれぞれの取り組みは、おおむね目標達成はした。	A	・子どもの特性に合わせた指導・支援をさせている成長を促すことができている。 ・保護者の中には「学力(学習)を伸ばしたい」思っている人もいるため保護者と子どもに対して何に力を入れていくのか方向をまとめて計画できるとよいと思う。	自立活動部 研究研修部 各学部主事
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○安全、安心な学校生活が提供できていると回答する教職員70%以上を目指す。 ○児童生徒が安心して学校生活を送ることができていると回答する保護者70%を目指す ○保護者とともに連携して、いじめやトラブルを見逃さない体制づくりを推進していると回答する教職員80%以上を目指す。	・児童生徒からの発信を見逃さないように丁寧に心身両面の把握をする。 ・児童生徒と職員の信頼関係を構築し、誰にでも、なんでも相談できる雰囲気を作る。 ・月一回の学部会などで気になる生徒の情報交換を行う。	B	・児童生徒を様々な角度から、また、複数の目で見て情報の共有を行っている。児童生徒が抱える諸問題に素早く対応を行うようにしている。 ・児童生徒との変化に素早く対応するようにして、信頼関係を築くことができた。また、児童生徒からの発信を待つのではなく、こちらから投げかけて思いを引き出したりもしている。 ・学部会、主事主任会等を通して児童生徒の情報共有を行っている。	A	○安全、安心な学校生活が提供できていると回答する教職員が98.5%であった。また、児童生徒が安心して学校生活を送ることができていると回答した保護者は94%であった。 ○保護者ととも連携して、いじめやトラブルを見逃さない体制づくりを推進していると回答する教職員は、97%であった。 児童生徒からの発信を見逃さず、しっかり把握して対応ができている。	A	・子どもが学校にいる時間、保護者は安心してお任せすることができている。子どもが学校から抜け出している話をたまに聞くので危険のないよう今後もお願いしたい。	生徒指導部 各学部主事
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの基本方針の確認や研修会を実施していじめの定義等を再確認し、早期発見、早期対応ができるように努める。 ○年2回のアンケート調査を行い問題の早期発見を目指す。	・いじめのサインを見逃さないようにする。 ・学級活動や生徒会活動でいじめ防止のポスターや標語の作成及び掲示を実施し、学校全体でいじめ防止への雰囲気づくりに取り組む。	B	・気になることがあれば早めに児童生徒に声をかけるようにしている。 ・学級活動や生徒会活動でいじめ防止のポスターや標語の作成及び掲示を実施している。	A	○基本方針の確認や研修会を実施した。 ○いじめについて早期発見、早期対応はできた。 ○アンケート調査でも問題が発見されたが、早期対応により解決もはやかった。アンケートが上がった時点で、すでに解決していたものもある。	A	・自分の意見や気持ちを発信するのが難しい子が多いので、アンケートで答えることが難しい子にも今後も目配ってほしい。	生徒指導部
	◎児童生徒一人一人が夢や希望を持ち、自立と社会参加に向けて意欲的に取り組もうとする教育活動の推進	○児童生徒一人一人が、「やってみよう」と意欲を持ち、「できた」、「わかった」と、実感できる授業づくりができた」と回答する教職員70%を目指す。 ○授業改善のために各学部で研究授業や事例研究会等を年3回以上実施する。	・各学部におけるめざす子ども像、キャリア教育全体計画を踏まえ、一人一人に応じた目標を設定して授業実践を行う。 ・個別の教育支援計画、個別の指導計画、通知表が適切に関連するように作成記入を行う。	B	単元、授業の計画立案時に学級や学年でめざす子ども像、キャリア教育全体計画を踏まえて計画し授業を実践するようになっている。 ・個別の教育支援計画、個別の指導計画、通知表などそれぞれを作成、記入するときに担当が丁寧に説明を行い、実際の記入へと持って行った。	A	○児童生徒一人一人が、「やってみよう」と意欲を持ち、「できた」、「わかった」と、実感できる授業づくりができた」と回答する教職員70%を目指し、98.5%ができた」と回答した。 ○授業改善のために研究授業や事例研究会等を各学部で年3回以上実施し、改善への取り組みができた。	A	・将来に向けて「やりたいこと」「得意なこと」「楽しいこと」を見つけて、卒業後もその子に合った自立を目指すよう導いてほしい。	教務部 各学部主事
	②「望ましい生活習慣の形成」	○規則正しい学校生活が提供できたと回答する教職員80%を目指す	・見通しの立ちやすい週日課表を作成し、毎日同じ流れになる生活をj提供する。	A	・わかりやすい週日課表を作成し、毎日同じ生活リズムになるようにした。	A	○規則正しい学校生活が提供できたと回答する教職員は98.5%だった。保護者は規則正しい生活リズムがついていると92%の方が回答している。 ○規則正しい生活は身についていると思われる。	A	・学校へ行く、学校でスムーズに過ごすということが規則正しい生活につながるのでも今後も継続してほしい。	保健安全部

●健康・体づくり	④「安全に関する資質・能力の育成」	○各種訓練を充実させ危機意識の定着を図る。 ○交通安全に関する指導を適宜行う。	・より実際の緊急事態に近い形を想定しながら、各種訓練を実施し、事前指導、事後指導にも力を入れる。 ・通学時の安全指導を行う。	A	・意識して、各種訓練を実施している。事前指導、事後指導にも適切に行った。 ・通学時の安全指導に必要に応じて実施した。	B	○各種訓練はマニュアルに沿って実施した。94%の教職員が適切な指導ができたと答えた。 ○交通安全に関する意識については、保護者の70%が意識が高まったようだと言っている。	B	・訓練は内容も回数も良くされていると思う。保護者にもその取り組みが伝わるよう周知に努めると良いと思う。交通安全は実際の横断歩道を渡る、雨の日に傘をさして歩いてみる等難しいので保護者の協力が必要。 ・保護者アンケート最終結果の質問項目5で「そう思う」「だいたいそう思う」が70%とさらなる向上への余地があると思います。	生徒指導部
	○新型コロナウイルス感染症の感染予防及び感染拡大防止における基本的な対策の徹底	○感染予防、感染拡大対策を徹底できたと回答する教職員及び保護者70%以上を目指す。	○機会あるごとに注意を促し、早期に対応し学校内での感染の広がりを防止する。 ○児童生徒の健康状態や、家庭の状況等の把握を保護者と連携して丁寧に行う。教職員の健康状態も適切に把握する。	B	・職員朝礼、掲示板などで注意を促し、早期対応を心がけた。現在、クラスター発生等はない。 ・体調チェック表の継続、eメッセージでの注意喚起の発信等を通して健康状態の把握を行った。 ・教職員の健康状態も常に気が付いた。	A	○感染予防、感染拡大対策を徹底できたと回答する教職員及び保護者70%以上を目指した。教職員は全員が感染対策ができたと言った。保護者は93%が対応できていると答えた。 ○校内で感染者はみられたが、感染が広がったとか、クラスターが発生したとかはなかった。 ○感染対策は適切であったと考える。	A	・学校からクラスターが出ることも学級閉鎖等もなく過ごせてよかった。マスクが個人判断になり対応が難しくなるかもしれませんが引き続き対策をお願いしたい。	学部主事 保健安全部
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○センター的機能について職員の意識を高め、役割を果たしていると言っている職員が60%以上を目指す。 ○地域のコーディネーター対象の研修会を年1回開催する。	○機会あるごとに、職員にセンター的機能の役割を紹介する。 ○地域のコーディネーターに向けたアンケートの結果を参考に、研修内容を計画する。	B	・機会をみつけては、コーディネーターが職員にセンター的機能の役割を紹介する。 ・「特別支援教育の学びの場と教育課程」という内容で研修を実施した。	B	○年度当初、9月、2月にセンター的機能の役割を果たした活動の紹介を行った。職員のセンター的機能の理解は95%あり、また多くの職員がセンター的機能の活動に関わることができていた。 ○地域のコーディネーター対象の研修会は開催し、多くの方が参加した。	B	・居住地校交流が増えており、地域とのつながりが持っているので今後もサポートしてほしい。 ・巡回相談をもっと使いやすくハードル引くようなしてほしい。	相談支援部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○時間外在校等時間の平均を前年度より2時間減を目指す。	・管理職による継続した呼びかけとノー時間外勤務デー等の設定 ・教材の再利用や共有化を図り、教材研究を効率よく行う。 ・各種校内書類の合理化と簡素化を図り事務作業を軽減する。 ・会議の精選と時間短縮を図り、教材研究の時間を確保する。	C	・定時退勤日の設定をして呼びかけた。定時退勤日以外でも気がかけて声をかけている。 ・教材の再利用や共有化は組織的には整理できていない。 ・管理職は提出書類を減らすように意識した。修正等も最低限で済ませるようにした。 ・会議によって参加者を減らすなどした。また、運営者は時間短縮を心がけている。	C	●時間外在校等時間が昨年度より減少したと答えた職員は67%であったが、実際の時間外在校等時間の平均は3時間増になってしまった。会議や、会議運営の見直しは進んでいると83%の職員が答えているが、業務の効率化、時間外勤務の削減を図るには、作成書類の削減、簡素化、事務作業時間の確保など、もっと思い切った対策を講じる必要がある。	C	・定時に帰るのは業務の内容から考えても難しいと思います。先生の数が増えて分担できれば一番いいのかもしれない。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○進路指導とキャリア教育の充実	○児童生徒及び保護者、ならびに学校職員が将来の自立と社会参加を意識して取り組もうとするための進路指導とキャリア教育の提供	○児童・生徒の将来の自立と社会参加を見据えた指導・支援ができていると回答する職員が80%以上を目指す。 ○自立と社会参加に向けた進路指導、キャリア教育が提供されていると回答する保護者が70%以上を目指す。	・学校とPTAの連携による、ニーズに応じた進路研修を企画・運営する。 ・「福祉サービス事業所情報」冊子や「進路だより」の発行とホームページを活用して取り組みの周知、理解を広げる。 ・本人、保護者、担任の足並みが揃うよう見学、懇談の機会を充実させる。	C	・PTA主催の進路研修については内容の検討、講師の選定が難航し実施しなかった。 ・「福祉サービス事業所情報」冊子や「進路だより」の発行を行った。学校ホームページに取り組みを掲載した。 ・中学部、高等部については事業所等の見学や進路に関する懇談を必要に応じて実施した。	B	○児童・生徒の将来の自立と社会参加を見据えた指導・支援ができていると回答する職員は91%であった。また、自立と社会参加に向けた進路指導、キャリア教育が提供されていると回答する保護者は94%にのぼった。 ○将来につながる指導・支援はできていると思われる。	A	・高等部のはってんマーケットを地域で行ったり、先生がたくさん活動して下さっているのをよく見ます。とてもうれしいです。保護者も見学等もっとさんかできればと思います。参加しやすい日程調整を先生と一緒に考えたいです。	進路指導部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・取組内容13項目のうち、最終結果でのAは6項目、Bは3項目でおおむね目指したところの達成はできているかと思われる。Cは1項目ある。Cの評価をつけた「業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減」については、この業務とこの業務をなくすとか、この文書作成をやめるとか、具体的な方策を取らないと、呼びかけ、意識付けだけでは達成できないと感じる。次年度もっと具体的な方策を打ち出して取り組みたい。</p> <p>・次年度も現在の取り組みを継続しながら学校の充実を図っていきたい。</p>
----------------	--